

# 開村100周年記念特集③

## 戦時下の和寒 昭和10年代

従来の区長制度を廃止し、翌年から8町内会と31部落会が設置されました。



11代村長 小田島嘉一郎 (昭和18. 5. 11~20. 5. 18)

### 当時の体験談

和寒町民逸話集「凍裂のひびき」から、字西和 林 隆樹さんの文章を引用します。

断となったと思う、戦争の是非はともかくとして、何とも残念で悲しいことであった。それにつけて思うことは、自らの意志では無いにせよ、青年訓練所及び青年学校に於いて、軍隊教育をし、多くの出征兵を送った私である。(中略) その方々に心からご冥福をお祈り申し上げると共に、ご遺族の方々にお悔やみを申し上げる次第である。

### 日中戦争時代

昭和12年7月7日、日本と中華民国の間に起きた戦闘は、当時「支那事変」や「日華事変」などと呼ばれていました。

第10代村長 川越武躬は、強力な国家支配の下で戦争協力態勢を進めなければならず、一方で疲弊する農村の暮らしを守るために三井・角館・松岡農場の開放を実現しました。

また、西和・東和小学校に高等科を設置し、昭和12年に期成会長として和寒神社社殿の造営にも携わりました。

しかし、人手不足から農業生産は低下し、資材不足のため土木建築工事も進めることは困難でした。

昭和15年には北海道庁令によって



10代村長 川越武躬 (昭和11. 11. 10~18. 5. 11)

### 太平洋戦争時代

昭和16年12月8日、太平洋戦争が開戦。この頃は、農場開放後の自作農を維持し、労力・資材が不足する中、食糧増産に取り組まなければならない厳しい情勢でした。

米軍がアツツ島に上陸する前日の昭和18年5月11日には、第11代村長小田島嘉一郎が就任しました。

このころは戦局の進展に伴って徴兵・配給・勤労動員などの事務が増したため、年々役場職員は増加しましたが、召集された者も多かったため、女性臨時職員を多数採用して急場を凌いだのです。

昭和20年4月私に召集令状が来た。現役は満州事変、次は樺太北緯50度線これで3回目である。この度の召集は「挺身切込隊要員」につき、伝家の宝刀あらば持参せよ。とあるが我家に槍はあるが日本刀はない、内地の本家へ伺ったが皆持つて行きどこの家にもないと言う、軍で支給する新刀を知っていた。

やがてその日が来た。先生や生徒、町長をはじめ在郷軍人、国防婦人会、部落の人たちに送られて、和寒村を後にした。これが郷里の見おさめであると思った。

(中略) 思えば沖繩本土決戦、広島長崎へ原爆投下、大都市の爆撃、もうこれ以上戦に耐えきれず陛下の決



12代村長 高橋清一 (昭和20. 5. 18~21. 10. 7)

### 開村30年後(昭和20年度)の人口

▽戸数及び人口  
 戸数 1,779戸  
 人口 10,964人  
 (男5,561人、女5,403人)

※終戦後、復員者や海外からの引揚者などが縁故を頼って村にやって来たため、前年から2,000人以上増え、一気に人口が1万人を超えました。